

# 運営ガイドライン

一般財団法人 首都大学野球連盟

体調がよくない場合は、入場は不可とする。

(例:概ね 37.0 度を超えるような平熱を超える発熱・咳・咽頭痛などの呼吸器症状、消化器症状、臭覚・味覚異常がある場合)

入場しても発熱や症状がある場合は退場があり得ることを同意のうえ入場する。

各チームは責任を持ってチーム(チームに所属する部員、応援団・チアリーダー・吹奏楽を含む)のマナー・モラル・感染症予防対策等の管理を行った上でリーグ戦に参加すること。

## 《来場迄の注意》

### 1. チーム・運営関係者(役員・審判)(※1)

- ① 非接触型体温計等により試合当日の起床時・球場への出発前に検温をチームが責任をもって行い、体調不良者の有無の確認を行うこととする。  
ベンチ入りするメンバーは選手25名、スタッフ7名の計32名とする。ベンチ裏でのチームサポートスタッフの人数は3名までとし、ブルペンキャッチャーは2名までとする。ファールボールボーイは1塁側チーム3名、3塁側チーム1名とする。ウォーミングアップ参加者は3名とする。
- ② 運営関係者(役員・審判)は当日の朝、各自で検温し、体調不良の有無の確認を行うこととする。
- ③ 平熱をこえる発熱(目安は 37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良者は来場不可とする。
- ④ チーム移動は可能な限り大学所有のバス、または貸し切りバスとする。バス移動の際1台の乗車人数は3密をできる限り回避できる人数とする。バス内の換気・消毒を徹底する。乗車中はマスクの着用を推奨する。

### 2. チームに所属する部員(※2)

- ① 観客席で観戦する部員についても当日の朝起床時・球場への出発前に、チームが責任もって検温を行い、体調不良者の有無の確認を行うこととする。  
自宅通学の部員が観戦する場合も同様に当日の朝起床時・球場への出発前に検温を行い、体調不良の有無の確認を行うこととする。
- ② 平熱をこえる発熱(目安は 37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良者は来場不可とする。
- ③ チーム移動は可能な限り大学所有のバス、または貸し切りバスとする。バス移動の際1台の乗車人数は3密をできる限り回避できる人数とする。バス内の換気・消毒を徹底する。乗車中はマスクの着用を推奨する。公共交通機関を利用し球場に来場する場合は出来る限り密になる混雑時を避け、移動中はマスクの着用、ソーシャル・ディスタンスの確保を心掛ける。

### 3. スカウト・メディア・大学広報関係者(※3)

- ① 当日、受付において氏名・企業名(大学名)・連絡先を記帳いただいた方にIDを発行する。
- ② 平熱をこえる発熱(目安は 37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良者は来場不可とする。
- ③ プロ野球スカウト関係者の入場の際に、NPB 新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに基づき感染予防対策の徹底を行う。

### 4. 大学関係者(※4)・野球部OB・後援会(※5)・保護者(※6)について 各チーム受付にて、当日チケットを受け取った方から入場を行うこととする。

### 5. チーム応援団・チアリーダー・吹奏楽部(※7)の入場について

- ① 当日の朝、各自で検温し、体調不良の有無の確認を行うこととする。
- ② 平熱をこえる発熱(目安は 37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良者は来場不可とする。

- ③ 各チーム受付を通過して、入場を行うこととする。
6. 一般客(※8)の入場について  
チケット売り場にて当日券もしくは特別入場証を購入後、受付で確認を行い、入場することとする。

## 《球場内での注意》

1. 球場内のロッカールーム・大会本部・記者席などの密閉を避け換気の徹底。  
(消毒については球場関係者と協力)
2. ベンチ内・グラウンド上での注意
  - ① 飲料水・タオルは各個人のものを用意し使用することを推奨する。
  - ② 唾・痰を吐かない。
  - ③ 試合中、手を舐める行為は行わない。
  - ④ メガホンの使用禁止。
  - ⑤ 手指衛生に努めたいえ、共用物品の使用を可能な限り控え、共用物品は出来るだけアルコールワイプ等をチームが用意して消毒する。
  - ⑥ ボールを触った手で眼、鼻、口を触らない。
  - ⑦ 審判員は、イニングの間、こまめに水分補給し熱中症に十分注意する。
  - ⑧ 試合終了後、各チームで使用したベンチ内・ロッカールームの清掃を徹底する。  
なお、球場より指示があった場合、消毒液を使用した消毒を実施することとする。(連盟にて用意)
3. 観客席での注意(チームに所属する部員・大学関係者・野球部 OB/OG・後援会・保護者応援団・チアリーダー・吹奏楽・メディア・スカウト等関係者)
  - ① こまめに水分補給し熱中症に十分注意する。
  - ② 声を出しての応援は可とする。
  - ③ 太鼓やメガホン、スティックバルーンをたたくなどの応援も可とする。
  - ④ 応援活動については、各チームが責任を持ってマナー・モラル・感染症予防対策等の管理を行い実施する。
  - ⑤ 各チームの偵察業務については、各校2名までとし、指定のエリアのみで行う。
4. 大会運営本部での注意
  - ① 運営業務にあたるスタッフは業務を行う部屋の換気を徹底する。また、こまめに水分を補給し、熱中症に注意する。
  - ② 次の試合を担当するスタッフとの交代にあたり、球場より使用した機材等の消毒の指示があった場合、消毒液を使用した消毒を実施する。(連盟にて用意)
5. メディア・大学広報関係者の取材
  - ① メディア・大学広報関係者が監督・選手などに取材を行う場合は取材対象者との距離(2m以上)を十分確保する。取材希望がある場合は、対象者を事前に連盟に通知する。原則、球場内での取材は禁止とするが、取材を行える部屋の確保が可能な場合は連盟が調整する。
6. スカウト関係者と選手との接触
  - ① スカウト関係者が選手と接触する場合は接触対象者との距離(2m以上)を保ち行う。  
NPB 新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに基づき感染予防対策の徹底を行う。  
球場内での接触は禁止とする。
7. 試合運営に係るオフィシャルの人数(1 試合の必要最小限の人数設定)
  - ① 受付2名
  - ② 公式スコアラー2名
  - ③ スコアボード1名、SB01名
  - ④ 放送1名。
  - ⑤ 審判担当2名
  - ⑥ HP速報1名
  - ⑦ SNS担当(X(旧Twitter)、Instagram等)1名
  - ⑧ ファールボールボーイ4名
  - ⑨ 球場担当最大25名(入場受付3~6名、駐車場担当2~9名、グラウンド関係10名)
  - ⑩ ネット配信スタッフ最大15名

⑪ チケット販売員最大5名

※運営上の業務役割・注意については「運営マニュアル」を参照のこと

8. 試合終了後、次チームとの入替え

- ① 次チーム分のロッカールームがある球場の場合は、球場到着後使用を許可する。  
ただし、次チーム分のロッカールームがない場合には、交替チームとの接触をなくすため、ベンチ・ロッカールームの清掃が終わるまで、次チームのロッカールーム・ベンチへの移動は制限する。
- ② 次チーム分のロッカールームがある球場の場合は、球場到着後使用を許可する。  
ただし、次チーム分のロッカールームがない場合には、交替チームの試合前更衣はチームバスまたは観客席で行う。ロッカールームの使用は、清掃が終わった時点で使用可とし、荷物の搬入を行う。
- ③ 交替チームとの接触をなくすため、各球場における交替時の動線を守る。使用する各球場の動線を決定次第、各チームに伝達するので徹底すること。
- ④ ベンチ・ロッカールームの清掃終了後、監督(スタッフ)が確認し連盟に報告する。
- ⑤ 試合終了後、他チームの試合を観戦することは可とする。連盟事務局への許可も必要としない。
- ⑥ 前試合終了から次試合開始までのインターバルは45分とする。

《IDカードの貸与》

1. 役員・運営スタッフ・審判員の運営関係者にはIDを開始日に渡し終了まで保管してもらう。
2. 選手・チームスタッフは許可された人数分のIDをチームに渡しチーム管理とする。リーグ戦終了時には連盟に返却する。
3. チーム関係学生(当該試合の野球部員)のIDはチームの制服を着ていることから一般の人と区別が可能であるためIDを配布しない。
4. メディア等関係者・スカウト関係者は当日特別IDを連盟受付で配布し、当日使用後は回収する。

《大会期間中の感染症:感染の疑い、感染者が出た場合の対応》

1. 部員・チーム内に感染者の疑いが出た場合
  - ① 平熱をこえる発熱(目安は37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良が出た場合は「相談センター」または「医療機関」に連絡、受診する。
  - ② 所属大学に連絡する。
  - ③ 各大学の規定に従って活動を行うこととする。
2. 大会運営関係者に感染者の疑いが出た場合
  - ① 平熱をこえる発熱(目安は37.0℃以上)、強い体のだるさ、息苦しさ等体調不良が出た場合は「相談センター」または医療機関に連絡、受診する。
  - ② 連盟の事務局に連絡・報告する。学生スタッフにおいては所属大学にも連絡する。
  - ③ PCR等の検査の結果が出るまで、活動を停止し大会運営には参加しない。
3. 部員・チーム関係者に感染者が出た場合
  - ① 「相談センター」または「医療機関」受診した結果、陽性と判断された場合は大会参加できない。ただし、症状が出た日から5日間以上かつ症状軽快から24時間以上たっていれば大会参加を可とする。  
ただし、出場辞退については各大学の判断が優先される。
  - ② 大会を継続するか否かは連盟常務理事会での判断とする。
4. 大会運営関係者に感染者が出た場合
  - ① 「相談センター」または「医療機関」で受診した結果、陽性と判断された場合は運営業務を中止とする。
  - ② 陽性と判断された時点で当該者は以後の大会運営参加は認められない。ただし、症状が出た日から5日間以上かつ症状軽快から24時間以上たっていれば大会参加を可とする。
  - ③ 大会を継続するか否かは連盟常務理事会での判断とする。

### 《大会開催前に感染の疑い、感染者が発生した場合の対応》

1. 上記の《大会期間中の感染症:感染の疑い、感染者が出た場合の対応》の1.～4.に準ずる。

### 《リーグ戦に参加できない大学があった場合の対応》

1. 当該チームは不戦敗、対戦相手は不戦勝とする。
2. 順位は、不戦勝、不戦敗も含め決定する。
3. チームが出場辞退した場合の個人記録・規定回数(投球イニング数、打席数など)に達していれば対象とする。
4. リーグ戦の途中からの参加は可とする。

### 《緊急事態宣言が発令された場合の対応》

1. 政府や使用する試合会場の都県から、緊急事態宣言に伴うイベント等の自粛要請が出された場合は別途検討とする。

### 《その他》

1. 本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合は、連盟常務理事会で協議の上、対応する。

### 《注記》

- ※1 チーム・運営関係者……試合登録選手、指導スタッフ、チーム帯同部員、審判、役員、事務局、学生スタッフ
- ※2 チームに所属する部員……観客席で観戦する部員と偵察を行う部員
- ※3 大学広報関係者……大学の広報誌作成や新聞部の記者等
- ※4 大学関係者……理事長、学長、副学長等役職者、課外活動担当者
- ※5 後援会……野球部後援会
- ※6 保護者……各大学野球部員の保護者
- ※7 応援団・チアリーダー・吹奏楽……大学の応援部、チアリーディング部、吹奏楽部の学生
- ※8 一般客……一般の観客